

# McAfee GroupShield 6.0 for Microsoft Exchange

## Microsoft Exchange のためのウイルス対策ソリューション

McAfee® GroupShield Exchangeは、Microsoft Exchange Server のために強力なウイルス対策とコンテンツセキュリティを提供します。定評あるMcAfeeウイルススキャンエンジンを備えたGroupShieldをMicrosoft Exchange Serverにインストールすることにより、インターネットワーム、およびウイルスによる被害を防止することができます。

さらに、GroupShield は、包括的なコンテンツフィルタリング機能と、McAfee 独自の Outbreak Manager™ を提供し、既知ウイルスのみでなく、未知ウイルスも意識した対策を実現します。管理者と同じ働きをするOutbreak Manager は、24 時間常時、ウイルス感染や不審な動作を監視し、ネットワークセキュリティをさらに強化します。

### ePolicy Orchestrator™ との連携 管理機能とグラフィカルレポート機能を強化

GroupShield は、McAfee 統合管理ソリューション ePolicy Orchestrator™ と連携し、より優れた効果を発揮する製品です。ePolicy Orchestrator を利用すれば、GroupShield を他の McAfee 製品と一元的に管理することができます。そのため、企業全体のウイルス対策ポリシーを簡単に把握できるようになります。

ePolicy Orchestrator は、ポリシー管理、詳細なグラフィカルレポート作成およびソフトウェア導入・更新のための、スケーラビリティを備えたセキュリティポリシー管理ツールです。管理者は、ePolicy Orchestrator を利用して、企業内で最も効果的なウイルス対策ソリューションを配備し、ネットワークを確実に保護できるようになります。

ePolicy Orchestrator と GroupShield 自身に用意された豊富なレポートを使用して、GroupShield の効果を評価することができます。レポートには、アップデートプログラムの配備やウイルスアクティビティなどの情報が含まれています。ウイルス対策ポリシーの導入とプロアクティブな管理における最大の課題は、ポリシー実現状況とネットワークの脆弱点検出を確認することです。特殊なニーズに合わせてレポートをカスタマイズする機能によって、ネットワークを視覚的に把握することができます。

### ルールにもとづく自動処理 ウイルス感染を未然に防止

McAfee 独自の Outbreak Manager は、画期的なウイルス対策テクノロジーであり、ウイルス感染を自動的かつ未然に防止します。このテクノロジーは、新たなウイルス感染の典型的な動作を探ることによって、被害発生を検知します。

Outbreak Manager は、自動モードまたは手動モードでの操作を指定することができます。

手動モードに設定した場合は、Outbreak Manager が管理者にウイルスの検出を通知し、管理者が感染を阻止するための対策を決定します。自動モードに設定した場合は、事前に定義された多数のタスクを感染検出時に自動実行し、ウイルス感染から電子メール環境を保護します。手動による操作は一切必要ありません。

### コンテンツフィルタリング

GroupShield のコンテンツフィルタリング機能が、スパムメールや危険なファイルを検出し、Exchange ユーザの環境への侵入を防ぎます。コンテンツフィルタリングは、以下の基準をもとに設定することができます。

- ・ ファイル拡張子
- ・ ファイル名
- ・ ファイルサイズ
- ・ 件名の内容
- ・ メッセージ本文の内容

コンテンツフィルタリングの定義と一致する全てのメッセージは自動的にブロックされ、隔離されます。管理者は、GroupShield の強力なコンテンツフィルタリング機能を利用して、ワイルドカードや複数のルールを追加することもできます。

### eXtended Policy Support

McAfee GroupShield を使用すれば、管理者はユーザ又は部署ごとにコンテンツポリシーを適用することができます。全社のコンテンツスキャンポリシーの例外として、ユーザグループごとのポリシー適用も可能です。これにより、管理者は部署ごとの免責条項や添付ファイルのフィルタリングなど、より詳細に部署ごとのポリシーを適用し高度なセキュリティを提供することができます。McAfee GroupShield には、10 のユーザポリシーが用意されています。McAfee eXtended Policy は、無制限のユーザベースのポリシーをサポートし、より多くの詳細なユーザごとまたは部署ごとのコンテンツセキュリティコントロールを実現します。McAfee SpamKiller for Exchange をお使いのユーザもまた、eXtended Policy Support の対象となります。

### 豊富なコンテンツフィルタリングルール

不適切なコンテンツを排除する場合の難しい点は、不審な内容の見極めとその組織内部への侵入、流出、蔓延を防ぐことです。McAfee GroupShield は、ワードベースのサンプルルールを含む豊富なコンテンツフィルタリングルールを E メール本文、添付ファイルに適用し、不適切なコンテンツ(例: 冒流的内容、ドラッグ、セックス、ヌード、人種差別、偏見などに関する表現)を排除することができます。管理者は、これらのルールをカスタマイズでき、サンプルルールも用意されています。使用される表現の程度により高、中、低の三段階の重要度に分けられています。さらに、コンテンツルールには使用基準が設定され、多くの言葉やフレーズが引きやすい誤検知を防ぐことが可能で、グローバル企業に対応するため、さらに多くの地域にローカライズすることも可能です。

### McAfee のウイルス検出・駆除エンジン 卓越したウイルス検出・駆除機能

GroupShield は、他の McAfee ウイルス対策製品と同様に、定評ある McAfee スキャンエンジンを使用しています。この McAfee スキャンエンジンを用いることで、トロイの木馬やインターネットワームをはじめとする多くの既知ウイルスや悪質な ActiveX および Java オブジェクトによる感染を防止します。McAfee の効果的なウイルス検出と駆除のすぐれた実績は、第三者機関のテストによって実証されています。McAfee エンジンを搭載した GroupShield には、この高度なウイルス検出・駆除テクノロジーが組み込まれています。

GroupShield には、このテクノロジーを利用して、既知ウイルスのみならず未知ウイルスの感染を未然に防ぐとともに、誤検出を防止します。McAfee は、今日のウイルス攻撃のスピードに対応する、最適なテクノロジーを提供します。

# McAfee GroupShield 6.0 for Microsoft Exchange

Microsoft Exchange のためのウイルス対策ソリューション

## ウイルス定義ファイルの自動アップデート

GroupShield は、AutoUpdate 機能を利用して、FTP またはネットワークファイル共有から最新のウイルス定義 (DAT) ファイルを自動的にダウンロードします。この自動化された機能によって、McAfee が提供する最新のウイルス定義 (DAT) ファイルを確実に更新することができます。

## Microsoft VS-API

GroupShield は Microsoft VS-API を統合し、Microsoft Exchange のインフォメーションストアを最も安全にスキャンすることが可能です。また、Microsoft VS-API 2.0 との互換性を維持しながら、Microsoft Exchange 2003 対応 VS-API 2.5 の新しい機能をサポートしています。GroupShield は、Outlook Web Access クライアント (OWA)、インターネットベースのクライアント (POP3/IMAP)、Outlook クライアント (MAPI) から送信される全てのメッセージ本文及び添付ファイルのスキャンします。また、SMTP プロトコルレベルでスキャンを行うことで、インフォメーションストアへの書き込みを防ぎ、ブリッジヘッドサーバで設定された環境を保護します。

## SMTP Transport Scanning

McAfee GroupShield は、SMTP トラフィックが Exchange のインフォメーションストアに入る前にスキャンすることができます。SMTP Transport Scanning は、ローカルサーバ向けに発信されていない E メールメッセージのスキャンを行い、メッセージの到達を阻止することができます。SMTP Transport Scanning は、VS-API 2.5 を実装する Microsoft Exchange 2003 に適用することが可能で、Exchange 2000 ユーザにも対応します。SMTP Transport Scanning は GroupShield の一部として提供されるため、Exchange 2000 サーバは Exchange 2003 サーバと同様のセキュリティを確保することができます。

## メッセージの破棄

McAfee GroupShield は、E メールメッセージにウイルスが検知されると、送信者、受信者、管理者にアラートメッセージを通知します。Melissa や Bubbleboy などのマスメールウイルスが発生した場合、通常では有益なアラートメッセージも厄介なものになってしまいます。McAfee GroupShield は、マスメールウイルスのアラートを別個に処理し、過剰なアラートメッセージを通知しないよう抑制します。

## 容易な設定と導入

E メール管理者は、Microsoft Exchange の環境を理解し、スムーズかつ安全なインストールプロセスを確保する必要があります。McAfee GroupShield for Microsoft Exchange は、より容易なインストールと導入を実現しています。また、McAfee ePolicy Orchestrator を使用してリモートから McAfee GroupShield を導入することができ、グローバルな展開もより容易に実現します。

## Web 管理

McAfee GroupShield は、使いやすい Web 管理インターフェイスにより、リモート管理機能やダイナミックなオンラインヘルプを使用して McAfee GroupShield の設定を行うことが可能です。

## Alert Manager

McAfee GroupShield は、周辺のウイルスセキュリティを明確に把握し、管理者に詳細なアラートを提供します。管理者は広範囲なシステムアラートを個別に設定し、フィルタリングを行い、優先順位をつけることができます。また、McAfee GroupShield は、McAfee Alert Manager™ と統合され、複数の管理機能と対象とした高度なアラートポリシーを容易に作成することが可能です。アラート送信は、E メール、ポケベル、Microsoft Event Logger、ネットワークメッセージで行うことができます。

## システム要件

以下は必要最小限のシステム要件です。実際のシステム要件は、それぞれの環境によって異なります。

### Microsoft Exchange 2000

- Intel Pentium 133MHz 以上 (または互換プロセッサ)
- 128MB 以上のメモリ (256MB 以上推奨)
- 740MB 以上の空きディスク容量
- Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4
- Microsoft Exchange 2000 Server Service Pack 3
- Internet Explorer 5.5 以降

### Microsoft Exchange 2003

- Intel Pentium 133MHz 以上 (または互換プロセッサ)
- 256MB 以上のメモリ (512MB 以上推奨)
- 740MB 以上の空きディスク容量
- Microsoft Windows 2000 Server Service Pack 4
- Microsoft Windows 2000 Advanced Server Service Pack 4
- Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (32-bit)
- Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (32-bit)
- Microsoft Exchange 2003 Server Service Pack 1 以降
- Internet Explorer 5.5 以上

MCADS-GSE-0401A-NA

## 日本ネットワークアソシエイツ株式会社

www.nai.com/japan/

東京本社 〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂 1-12-1 渋谷マークシティウエスト 20F  
TEL: 03-5428-1100(代) FAX: 03-5428-1480

名古屋営業所 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 2-20-25 丸の内 ST ビル 8F  
TEL: 052-203-8421(代) FAX: 052-203-8422

西日本営業所 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島 2-2-2 近鉄堂島ビル 18F  
TEL: 06-6344-1511(代) FAX: 06-6344-1517

福岡営業所 〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東 1-10-27 アステリア博多ビル 8F  
TEL: 092-452-3511(代) FAX: 092-452-3515

製品、サービスに関するお問い合わせは下記へ